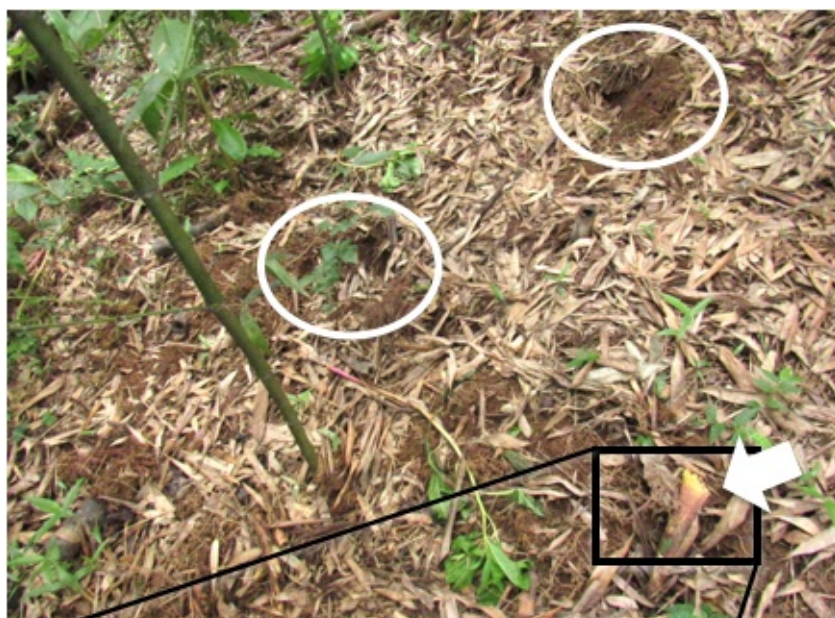


たけのこ



主な加害種：イノシシ、サル

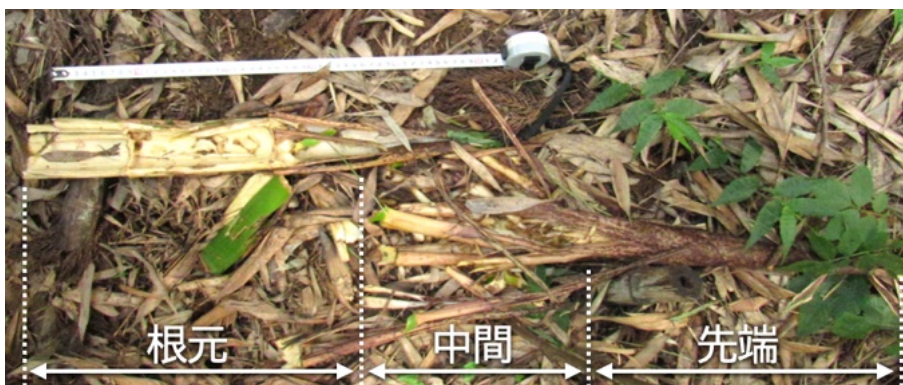
モウソウチク、マダケ、ハチク等のたけのこが、イノシシやサルに食害される。イノシシは地表だけでなく土中にあるたけのこも掘って食べる。サルは地表に出たたけのこを食べる。



加害種：イノシシ

6月下旬の発筍期のマダケ林で、イノシシが夜間に来ていた後に撮影。地面の所々が深さ5～10cmほど掘り返され(丸囲み)、元が折れた長さ約25cmのたけのこがあった(矢印)。地表に出ているたけのこの場合、イノシシは基底部のみを食べ、先端は残す特徴がある。食べられた横断面は、噛み砕かれたように粗いギザギザになっていた。

撮影：益子



加害種：イノシシ

上の写真と同時に撮影。長さ約70cmのたけのこの元が折られ、根元部分は縦方向に割られて一部が落ちていた。中間部分は噛み砕かれて無くなり、先端部分は残っていた。

撮影：益子



加害種:サル

5月に撮影。地表に出たたけのこ(モウソウチク)のやわらかい中身がむしり取られるように食べられていた。硬い皮は裂かれ、先端も残っていた。周囲には掘られた様子はなく、サルが食べたと考えられる。

提供:飯塚康雄氏